

大里小だより

1月号

令和6年1月15日

※学校だよりは、校長が作成しています。

能登半島地震で被災された地域が復興し、子どもたちの心の傷がいやされますように。

今年もよろしくお願いします

今年の干支は辰（たつ）です。辰年は活力旺盛になり、大きく成長して形が整う年だそうです。また、辰を竜（龍）に置き換えると、十二支の中で唯一空想上の生き物で、隆盛の象徴だそうです。

いずれにせよ、じっとしているのはもったいない気がしませんか。今月始めた小さなことが、後に大きな変化を生むのかもしれません。



ご協力くださいました学校アンケートの結果です

年に一度、学校では保護者と児童にアンケートを実施して、教育活動を点検する指標としています。本年度も11月にウェブでアンケートを実施しました。ご協力ありがとうございました。PTA会員数136のうち、106件の回答をいただきました。

学校や学校運営協議会が大事にしていることについて、今回の結果を振り返ります。全項目の集計結果については、一覧表をつけたのでご覧ください。

☆1番大事なこと

「子どもは楽しく学校に通っている。」について保護者の96.3%が肯定的回答、「学校に行くのは楽しいです。」について3～6年生児童の91.1%が、1・2年生児童の71.1%が肯定的回答でした。まず、この項目が一番大事だと思っています。

保護者については昨年度とほぼ同じ割合でしたが、1・2年生児童の割合が昨年度より低くなったことが気になります。さらに、1・2年生児童は「学校の勉強は楽しいです。」や「悩みや困ったことがあるときは、友だちや先生に相談できます。」についても肯定的回答の割合が低かったので、結びつけて考えると、ここに学校へ行くのが楽しくない原因があるのかもしれません。学習活動が楽しく感じられる工夫をすること、先生に話したい盛りのおもたちの話を聞くことについて、3学期は丁寧に取り組んでいます。

学習場面では「ペアやグループの友だちと話をしながら勉強して、よく分かります。」と回答した児童が昨年度より増えているので、学習場面と同じように、学校生活で困ったことが起きた場面でも、友だち同士相談をして解決できていくようであってほしいと思い

ます。そうした「仲間づくり」ができているかも、学校が楽しい場であるための大事な要素です。また、昨年度の3～6年生児童も同じ傾向でしたが、友だちの相談にのれる子は90.4%もいるのに、自分の相談を友だちにもちかけられる子は73.5%で大きなギャップがあり、「本当のところは言いにくい」実態があります。当たり障りのない相談をし合っても、見せかけだけの「友だちごっこ」です。この2つの質問の回答に差が出るのは大人でも同じだと思いますが、学校教育では社会の理想をめざして、本当のところも相談しやすい人間関係、「仲間」をつくる人権教育に取り組んでいます。3～6年生児童の結果についても真摯に受け止めています。

保護者からも、「学校は子どもたちの悩みごとや困り感について把握し、相談にのっている。」が74.5%と心配してくださっていますが、これまでを振り返って3学期取り組みますので、ご安心ください。（※肯定できなかった約4名の保護者の方は、すでに学校と相談中の方だとは思いますが、まだの方はぜひご連絡ください。）

☆学校が今年大事にしてきた3つのこと

①【家庭学習の時間】

昨年度より若干児童の割合が低いですが、およそ80%の児童が時間を考えて家庭学習をしています。保護者が思うより頑張っていますので、お子さんの「予定帳○(○ー)」をのぞいて確かめてください。予定帳には、取り組んだ家庭学習（宿題・自主学習）とかかった時間が記録されています。担任は毎日チェックしています。

②【自主学習の習慣（3年生以上）】

自主学習は、学年によって週1回以上とか2回以上とか約束を決めています。もちろん、宿題が早く終わった時には、足りない家庭学習の時間を満たすために積極的に自主学習に取り組みます。将来を考えて自律的な学習ができる子にすることが目的です。で、習い事がある日もあるけれど、別の日に頑張ってもらっています。児童の意識は70%程度ですから、まだまだだと考えています。

③【家での読書習慣】

「児童が常に読みかけの本を持っている状態にする」ことに、年度当初より学校として取り組んできました。そのために、各学年で様々な具体的な取組を考えました。

学校で本を読む児童の割合は、今年も高いです。しかし、それに比べて家で本を読む児童の割合は、今年も低いと言えます。

結果を受けて取組を振り返ったところ、「家での読書習慣をつける」という目的意識が薄くなっていました。家庭学習の足りない時間を満たすために読書をする、自主学習として読書をする、そのような児童への働きかけが足りませんでした。そこで環境を整えるため、3学期は学校図書館で借りた本3冊のうち、常に1冊は家に持ち帰ります。そうして家で時間があるときに、児童がさっと本を手にとってくれることを期待します。

☆学校運営協議会で大事にしてきたこと

①【安全に登下校できる】

保護者・児童とも、とても高い割合の肯定です。学校は、地区委員・見守り隊と連携して通学班の様子を見守り、必要に応じて指導をしてきました。踏切工事による通学路の変更もありましたが、PTA や見守り隊の迅速な支援があり、安全に登下校できました。ありがとうございます。

今後は、各地区で安全な登下校のために集会をしてくださる予定だと聞いています。よろしくお願いいたします。

②【自分の思いや考えを話せる】

昨年度は肯定する1・2年生児童の割合が低くて心配しましたが、今年はよくなりました。成長してくれたんだと思います。今後も、学校以外の様々な場で、児童一人ひとりがちゃんと話せるように、話さざるを得ないように配慮してもらえるとありがたいです。

地域のみなさんの手で（支えて）、大里の子として願う姿に児童は育ちます。

③【体験や経験から学んでいる】

保護者は、児童より高い割合で肯定してくださいました。昨年度低かった1・2年生の割合も、3年生以上と同程度になりました。「先生の言うとおりにしてみる」から「やりたい・やってみたい」という気持ちにさせる取組をしようと、昨年振り返ったことが実を結んだと考えます。

子どものうちに様々な経験を通して学ばせることは、将来につながります。「非認知能力」をご存じでしょうか。非認知能力は、学力（認知能力）と対照的に用いられる言葉で、IQ（知能指数）のような数値で図れる知的な学力ではなく、目には見えない力、「生きる土台となる力」「あと伸びする力」「生涯の学びを支える力」などと言われています。具体的には、意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力などです。

学校だけでは十分伸ばせません。家庭や地域での様々な経験で力がつきます。

☆忘れていませんか

3月に児童の実態調査をして、6月に「スマホ・ゲームとの正しい付き合い方」として、みなさんにお伝えしたことです。4点ありました。①利用時間の見直し②中身にも注意③情報モラルの確認④トラブルの未然防止。

今年も、「子どもとテレビやゲームの時間にルールを決めている」という保護者の割合は70%でした。（※決める必要がないというご家庭は除外しての割合です）勝手ながら残る30%の児童のことを心配しています。再度、家庭でのルールについてご確認ください。